

## 戦争を知らない世代の私

くぼたゆきこ  
久保田雪子

### 生まれは越後

太平洋戦争が終わって数年後に私は生まれました。いわゆる団塊の世代と言われる子供の大変に多かった頃です。生家は、新潟の田舎の、周りを農村地帯に囲まれた小さな温泉町で、お土産物の販売を中心とする商店を今でも営んでいます。薬効の高い温泉が豊富に湧き出るので、かつては長く湯治をするお客様も多く、農作物も豊富で、終戦後に多くの日本の人達が苦しめられた食糧難を実感することも我が家ではあまり無かったようです。

空襲の被害もありませんでした。

23 年前に 77 歳で他界した父は、終戦の少し前に徴兵で実戦を経験していたのですが、私達 4 人の子供に戦争の体験を話すことはほとんどありませんでした。お酒を飲んで少し酔った時に、「二の腕の部分に今でも砲弾の破片が入ったままだ」とか「砲弾が耳の横を通った時の音は今でも忘れられない」などと話すのを聞いたくらいです。辛く苦々しい戦争の記憶を家族には話さず、抱え込んで生きてきたのだらうと思いません。

### 戦争の話

小学校、中学校も田舎の学校でしたから、先生方は数年の任期で就任するような若い方が多く、終戦直後に 180 度の価値観の変更を迫られた経験を経たであろう年代の先生はほんの数人というところでした。そのせいか戦争について深く授業で聞くことも無く、戦時中日本軍がアジアの地で残酷非道な行いをしたことや、アメリカ軍による焼き討ちのような日本全土への激しい空襲の後、広島や長崎への原子爆弾の投下終戦につながったことなどほとんど知りませんでした。

### 戦争の歴史を知って

戦争の歴史を本気で意識し始めたのは 40 歳代になってからでしょうか。

都会に出て来て 20 年ほど過ぎたこの頃になると、自分が戦争について本当に何も知らなかったし何も考えてこなかったことを自覚するようになりました。

時にマスコミ等で伝えられる、中国や朝鮮半島の人達の日本に対する激しい憎しみを含んだ攻撃的な姿勢に驚きを感じて、それが「一体戦時中に何があったのだろう」と意識して調べたり見聞きしたりするきっかけになりました。

そうして少し知るようになると、所謂教育の場では何も本当のことが教えられなかった

ことがよく分かってきました。

戦争を主導した当事者達は、日本が敗戦国になってしまったことに強い恥と屈辱の意識を持ち、自分たちが行ったことをまるで封印してしまうように隠し通そうとしてきたのではないかという気がしました。その姿勢が教育の場にも及んだのではないのでしょうか。それにしても、そこに過去の行いやそれを隠そうとすることに対する強い罪悪感は無かったのでしょうか？

### 戦争の被害者を思う

何より心身ともに深く傷つき多くを失ったのは、他国も含めて普通に暮らしていた人々です。今東京の街を歩いてみると、当時を知る人に「ここは戦争の空襲で焼け野原になったんだよ」などと聞かされることがあります。それがどんな悲惨な状況だったか想像してみると、よくその中から立ち上がったものだと感動します。人はそういうものすごい力を持っているものなのだと驚きを覚えます。

戦争の実体験のない私は、当時のことをよく調べ、想像力を働かせてそれを胸に刻んで生きていきたいと思います。今の日本の基礎はあの敗戦から力強く立ち上がった復興の結果の上にあるのでしょし、そしてそこに私たちは今生きているのですから。

### 未来に向かって

日本は二度と戦争をしないと憲法九条で誓いました。それにもかかわらず時のトップにいる人が、何とか日本を戦争ができる国にしたいと画策している今の政治に、多くの国民が「否」を突き付けています。

このことは私達に戦争について深く考え、意識させるきっかけになったと思います。政治家のどんな独り善がりの高邁な理屈があろうと、たとえ世界の一部から日本は腰抜けだと笑われようと、「絶対に戦争はしないのだ！」という日本人達の強い思いを確認し合えたのは素晴らしいことでした。

普段日本人達はあまり声高に叫ぶことをしないと感じていたのですが、今度だけは違っていました。学者、研究者の方達の存在も本当に心強いことが今度のことで分かりました。今後の方向は分かりませんが、もう絶対に戦争をしないという私たちの思いが負けないことを強く祈りたいと思います。

平成 27 年 7 月 25 日  
(女性・66 歳・元学校職員)